

Report

久慈エクステンションセンターだより

●エクステンションセンターを引き続きよろしくお願致します

平成 28 年度末までの三陸復興推進機構下と同じく、久慈、宮古、大船渡に拠点を置き、各担当者も変わりなく活動しています。

三陸復興推進機構では、主に担当地域における各企業や団体等の連携ニーズや課題収集とその相談対応等で地域と大学をつなぐコーディネート活動を行い、さらに機構の全 6 部門が沿岸各地で取り組んできた活動の調整や企画を業務としてきました。

今年度からは、企業や事業者と実施してきた共同研究案件の進展や新規開始に向けた相談と調整を主業務としつつ、地域連携推進機構との機構統合により、これまでの担当地域外も含めた各機関との連携・協同の活動を一層強化して参りますので、どうぞよろしくお願致します。



各エクステンションセンター表札の機構名称を変更しました

●まだまだあります！久慈地域の魅力紹介

これまでの三陸復興レターでも久慈地域の魅力や見どころをご紹介してきましたが、今号では久慈市北隣の洋野町大野地区をご紹介します。こちらは旧大野村時代から「一人一芸の里」を掲げて人づくり作りと地場振興に取り組んでおり、それらを一箇所に集約して大野の魅力に触れられる施設「おおのキャンパス」が国道 395 号（通称・九戸街道）沿いにあります。季節毎に様々なイベントが開催される交流拠点施設でもあります。

基幹産業である酪農を紹介する模範牧場に、掘り出し物満載の産直施設、そば打ちや木工・陶芸の体験工房、さらにパークゴルフ場や飲食・入浴・宿泊施設など、実に 18 もの施設で構成されています。

国道 395 号は軽米～久慈間を結ぶ幹線道路で、八戸道軽米 IC にも接続しており、おおのキャンパスへのアクセスは比較的容易です。県北への行楽やヘルスツーリズム先としても最適です。

私のイチオシは、おおのキャンパスを構成する模範牧場の高台にある、ひろのまきば天文台からの眺望です。企業訪問時に通る場所なのですが、新緑の晴天時には牧草の鮮やかなグリーンと丘に吹く冷風も相まって、胸がスツと！する心地良さがあります。北方角には気軽にトレッキングできる久慈平岳（標高 706m）があり、ツツジが咲く時季には、天文台からでも大群落で赤く色付いた山の様子を見ることができます。

県北へお越しの際は、ぜひおおのキャンパスにお立ち寄りください！



まきば展望台は毎週金、土、日の 13 時～21 時に開館



山あいの大野地区なので予想外でしたが、一帯は三陸ジオパークのジオサイトになっています

連絡先／久慈エクステンションセンター
〒028-8030 岩手県久慈市川崎町 1 番 1 号 久慈市役所（2 階）
【政策推進課内】 TEL:090-2953-2519 E-mail:kujixet@iwate-u.ac.jp

Information

「少年少女のためのバスケットボール」 7/27(水)～7/29(金)

バスケットボールを愛し学びたい少年少女に、レベル・目的に応じたプログラムを用意し、バスケットボールを楽しんでもらいます。

●会場／岩手大学第二体育館 ●時間／17:00～18:00・2 日目以降 16:00～18:00
●対象／小学生 4～6 年（男女） ●募集人数／30 人
●講習料／300 円（但し、傷害保険料を含む）

「地域政策入門 ～まちづくりを考える～」 7/30(土)

本学人文社会科学部では、平成 28 年度に法・経済・環境の視点から継続可能な社会づくりのための課題に取り組み、地域社会に貢献できる人材の育成を目的とする地域政策課程を設置しました。本課程は、これまでの法学・経済課程と環境科学課程の教育を統合し、地域マネジメント、地域創生をキーワードとする教育・研究を行っています。本公開講座は、高校生・一般市民を対象に、新設した地域政策課程での教育内容の一端を紹介し、広くこの課程を知っていただくことを目的として開催します。本年度は「まちづくりを考える」をテーマとして、法学（政治学）・経済学・環境学の 3 分野から話題を提供します。

●会場／岩手大学図書館 2 階 生涯学習・多目的学習室 ●時間／13:00～16:00
●対象／高校生（主対象）・一般市民 ●募集人数／50 人 ●講習料／無料

釜石公開講座「地域を支える防災技術・環境技術」 8/6(土)

東日本大震災から 5 年が経ち、東北地方太平洋沿岸地域のインフラも少しずつ整備され、新しい道路や防潮堤、生活基盤となるまちが形成されてきています。まちは新しくなっても震災が教えてくれたことを忘れてはなりません。震災以降、地球温暖化が原因ともささやかれている異常気象により、多くの自然災害が各地で起こっています。震災から 5 年の節目に当たり、自然災害に対する防災意識や自然環境問題への意識を再確認し、これから起こりうる自然災害に対してどのように対応するかについて、震災以降私たちがやってきた防災および自然環境保全への取組を紹介し、地域を支える防災技術と環境技術についてわかりやすく説明します。

●会場／釜石市教育センター ●時間／13:00～17:00
●対象／高校生・一般市民 ●募集人数／30 人 ●講習料／無料

「哲学者内山節氏を迎えての第11回「哲学の森」」 8/20(土)～8/21(日)

哲学者 内山 節 氏をお迎えし、森の中でこれからの社会や地域づくりのあり方などについて学ぶ場を設けることといたしました。今回は、講演を聞くだけでなく、意見交換の機会を設け、様々な考え方を提供していきたいと思っております。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢演習林
●時間／【土】13:30～17:00 【日】8:30～12:00
●対象／一般市民（高校生以上） ●募集人数／30 人 ●講習料／無料

「牧場体験 子牛の誕生&トラクタに乗ろう」 9/17(土)～9/18(日)

岩手大学御明神牧場にて、牛の分娩観察、農業機械の体験を通じて、農業への理解を深めてもらいます。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター御明神牧場
●時間／9月17日(土) 13:00～18:00(日) 13:00～18:00
●対象／親子（子は小学生以上） ●募集人数／10 組又は 25 名
●講習料／1,100 円（食事代 1,000 円、傷害保険料 100 円）

「フィールドセミナー ～秋の植物観察会～」 10/2(日)

滝沢演習林敷地内で、樹木観察や不伐の森等の散策を通じて秋の森の様子を観察し、理解を深めてもらいます。

●会場／農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢演習林
●時間／10:00～12:30 ●対象／一般市民 ●募集人数／15 人 ●講習料／無料

▼全ての公開講座の問い合わせ先は下記のとおりです
地域連携・COC 推進課（土日祝日除く 9:00～17:00）
TEL:019-621-6492 / FAX:019-621-6493 / E-mail:renkei@iwate-u.ac.jp

「岩手大学シニアカレッジ 2016」 9/7(水)～9/13(火)

岩手大学シニアカレッジは、岩手大学と岩手県内の自治体や各地域の方々連携して実施する滞在型生涯学習プログラムです。大学構内の専用教室での講義やフィールドワークなどを通じて、受講生同士の交流、地元、学生たちとの出会いの場ともなります。

今回のテーマは、「宮沢賢治生誕 120 年」です。皆様もよくご存じの賢治さんは、1896 年（明治 29 年）8 月 27 日、岩手県稗貫郡里川口村（今の花巻市豊沢町）に生まれ、その生涯の中で詩集『春と修羅』や童話『注文の多い料理店』や『銀河鉄道の夜』など、数多くの作品を世に残しました。また、賢治さんは、岩手山や早池峰山などへの登山や地質調査などで県内各地を訪れていて、その地をテーマとした作品も数多く残されていますし、県内の各地にも作品にちなんだ碑が建てられています。

シニアカレッジ 2016 では、賢治作品にゆかりの地を実際に訪れ、その原風景を感じていただくとともに改めて賢治作品を現地でも味わっていただきたいと思います。

今回は、特にこれまでもとは違った岩手の魅力に触れられ、皆様の向学心をきっと満足していただけるものと確信しております。「イーハートヴの学舎 岩手大学キャンパス」で皆様をお待ちしております。

●会場／岩手大学図書館 2 階 生涯学習・多目的学習室
※ 1 泊 2 日のフィールドワークがあります（花巻市）
●対象／学習意欲をお持ちの方（年齢制限、入学試験ともありません）
●募集人数／30 人 ●講習料／70,000 円（1 泊 1 食込み）



岩手大学三陸復興・地域創生推進機構レター

岩手の“大地”と“ひと”と共に



国立大学法人 岩手大学
地域連携推進部
地域創生推進課

〒020-8550
岩手県盛岡市上田 3-18-8
TEL.019-621-6629
FAX.019-621-6999
E-mail.sanriku@iwate-u.ac.jp
平成 28 年 7 月 20 日発行

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/newsletter.shtml> ◀ 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

三陸復興・地域創生推進機構の開設にあたって

三陸復興・地域創生推進機構長／理事（復興・地域創生・男女共同参画担当）副学長



菅原 悦子

平成28年4月1日、「三陸復興・地域創生推進機構」が新たに発足しましたので、ご挨拶申し上げます。

本学は平成16年度の大学法人化を機に、「岩手の“大地”と“ひと”と共に」を校是と定め、グローバルな視点をもち、地域を先導する大学として歩み始めました。

東日本大震災の発災直後には、「三陸復興推進機構」が設置され「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」スローガンに掲げて、震災復興支援活動に取り組んでまいりました。

一方、「地域連携推進機構」は、地（知）の拠点として本学の教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元を図ることを目的に、

平成16年から12年間に亘り、大学戦略である地域連携を推進してまいりました。

震災から5年以上が経過した現在、三陸沿岸地域はもちろんのこと、岩手県内各地の自治体や企業においても、急速な人口減少や産業衰退など、いまなお多くの解決すべき課題を抱えています。こうした現状を見据えた時に、機構別の活動は非効率で、その成果も限界があります。そこで全学を挙げてスピーディに成果を生み出すために、この度の機構統合を決定致した次第です。

新たな機構は、持続可能な地域社会づくりへの貢献を柱として、新しい地域創生モデル構築に関して県内自治体等へ提言する計画も具体化しつつあります。

本学では再建途上の三陸の復興と、岩手県の「まち・ひと・しごと創生」、持続可能な豊かな地域社会づくりに貢献する活動を、今後とも積極的に推し進める所存です。

地域の皆様には、本機構の趣旨をご理解いただき、なにとぞご協力とご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

三陸復興・地域創生推進機構とは

●三陸復興・地域創生推進機構の目的

岩手大学では、三陸復興・地域創生推進機構を核として、再建途上の三陸復興と人口減少化にある岩手県のまち・ひと・しごと創生を目的に県内自治体と連携し、岩手発の新たな地方創生モデル構築に取り組めます。

事業の成果については、新たに設置する地域創生専攻（平成 29 年度設置予定）に還元し、地域創生を先導する人材育成を目指していきます。

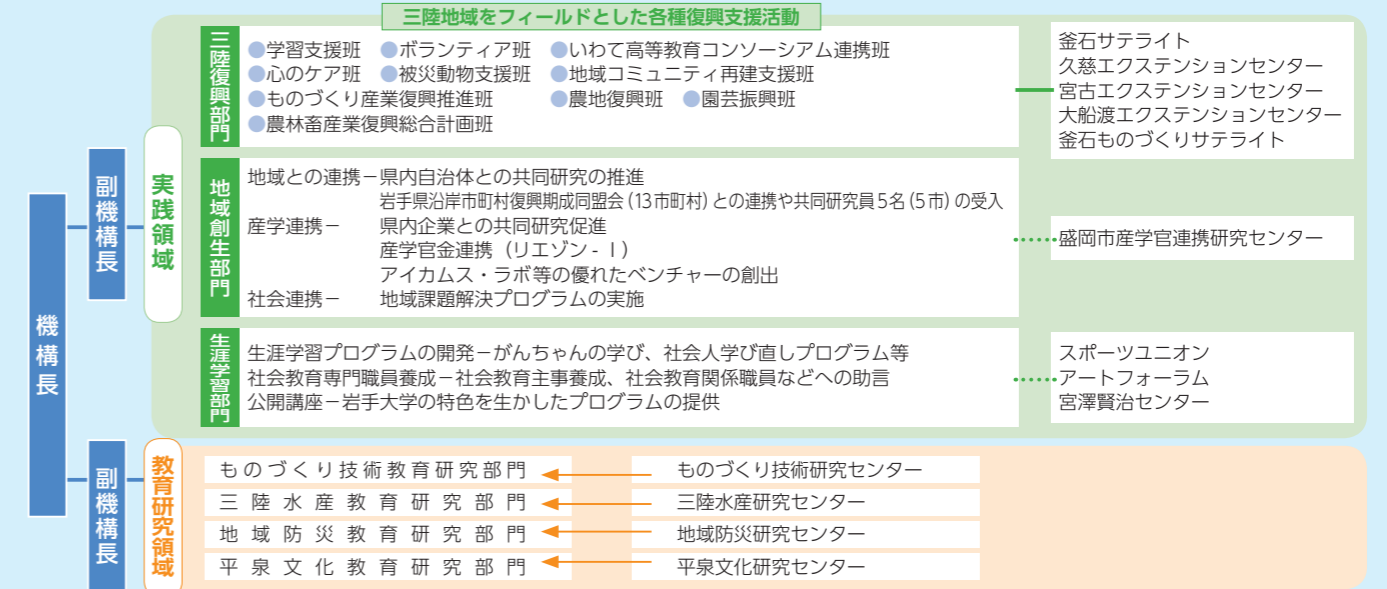
●三陸復興・地域創生推進機構の特徴

- ①復興支援活動によって得られた知見や成果のフィードバック
- ②地（知）の拠点としての教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元
- ③岩手大学が有する知的資産を用いた地域での生涯学習振興
- ④地域特性を活かした各教育研究部門による専門領域の教育・研究

教育研究領域の成果を基礎とし、実践領域での取組や課題解決で導かれた知見を地域創生専攻の教育研究に還元

地域創生型人材の育成

●三陸復興・地域創生推進機構組織図



Topix スターダスト☆レビューから寄附いただきました。

岩手大学は東日本大震災発災後、三陸復興推進機構を立ち上げ、児童生徒への学習支援、地域コミュニティ再建支援、心のケアなど様々な取組を行ってきました。

本学のこのような取組に対して、「夢伝説」、「今夜だけきつと」、「木蘭の涙」などのヒット曲で知られる音楽グループ「スターダスト☆レビュー」から、10,000,000円の義援金を「岩手大学イーハトーブ基金」にご寄附いただきました。

スターダスト☆レビューは震災直後から、チャリティーライブやファンの皆さんに義援金を呼びかけて継続的に支援活動を行っています。

今回この寄附を受けて、スターダスト☆レビューに感謝状の贈呈を打診したところ、三陸地域の皆さんに歌声を届けたいという申し出があり、6月6日に「陸前高田市コミュニティホール」で「A・カペラ & アコースティックフリーライブ『一緒に歌いませんか』」が、開催されました。



スターダスト☆レビューとの集合写真
※岩渕学長（中央手前）

定員360名のホールは、陸前高田市や大船渡市など三陸地域の方々を中心に満員となり、スターダスト☆レビューの陸前高田市初となるライブへの期待の高さが表れていました。

ライブが始まるとスターダスト☆レビューの歌と演奏で会場は暖かい空気に包まれ、その紡ぎ出された音色は来場者一人一人の心にしみこんでいき、「音楽の持つ力」を感じたライブとなりました。

終了後の記者会見では、岩渕学長はスターダスト☆レビューとファンの皆さんへの謝意と音楽のパワーのすごさを感じたと述べました。

またスターダスト☆レビューのボーカル根本要さんからは、岩手大学への期待と「防潮堤で海が見えなくなったことが残念ですが、以前よりもすてきな町になることを願っています。」とのエールを頂きました。

岩手大学では、今回の寄附金を活用し、今後も三陸地域の復興支援活動に取り組んで参ります。



スターダスト☆レビューのメンバーに感謝状を贈呈する岩渕学長



感謝状贈呈後、スターダスト☆レビューを代表してボーカルの根本要さん(右端)から挨拶

Topix 地域コミュニティ再建支援の取組が全建賞を受賞しました。

三陸復興部門地域コミュニティ再建支援班の大船渡市災害公営住宅でのコミュニティ形成事業の取組みが一般社団法人全日本建設技術協会の平成27年度全建賞を受賞、6月28日にアルカディア市ヶ谷で表彰式がありました。

このプロジェクトは、岩手大学、大船渡市、独立行政法人都市再生機構岩手震災復興支援本部の3機関が連携して取り組んでいるものです。

応急仮設住宅から本設の災害公営住宅へ移転した方々からは、ようやくきれいな住宅へ住めることへの喜びの一方、自立が求められる災害公営住宅への移転に対し、不安に思う声も聞こえてきました。特に「周りの人と話す機会がほとんど無い」など、住民間のコミュニティや地域との関わりが薄いことへの不安の声が多くありました。



大船渡市災害公営住宅平団地での花壇整備風景



表彰式（岩手大学 晴山地域連携推進部長、大船渡市 西山都市整備部長、(独)都市再生機構 松本住宅建設チームリーダー）



災害公営住宅入居者のコミュニティ支援に取り組む船戸特任研究員(右)

そこで岩手大学では、三陸復興部門地域コミュニティ再建支援班の船戸義和特任研究員が中心となり、主に入居者間のコミュニティ形成、自治組織の形成、集会所の利用促進などの取組を行いました。

災害公営住宅(たいら)団地では、最初に入居者同士のコミュニティ形成に注力し、自発的な取組を行う中心人物を探しました。さらに中心人物の意欲と楽しみを大切に、仲間を増やしながら自立した活動が出来るように後押しをしました。その結果、ガーデニングが趣味の入居者が中心となり、費用も自分たちで出し合っ住み主体で花壇の整備を行いました。花壇整備は今年も続けられ、現在もコミュニティ形成の重要なツールとなっています。

Topix いわて銀河プラザにて岩手大学フェア2016を開催しました。

6月28日から6月30日までの3日間、東京都中央区銀座にある岩手県アンテナショップいわて銀河プラザにて「岩手大学フェア2016」を開催しました。

毎年、岩手大学教職員や学生が商品開発に協力し製品化された県内企業商品の販売及びPRを行うことで、岩手県及び岩手大学の産学官連携の成果を県外に発信しています。平成23年度以降は東日本大震災からの復興支援イベントと位置付け、被災地域企業の商品も併せて販売しています。

本年度は、三陸復興・地域創生推進機構に所属する県内5市(盛岡市、花巻市、八幡平市、久慈市、釜石市)の共同研究員を中心に、学生等も支えたスタッフが販売とPRを行いました。



産学官連携で商品化された食品をお客様に説明する共同研究員



販売しながら、お客様に岩手県の復興状況を説明しました

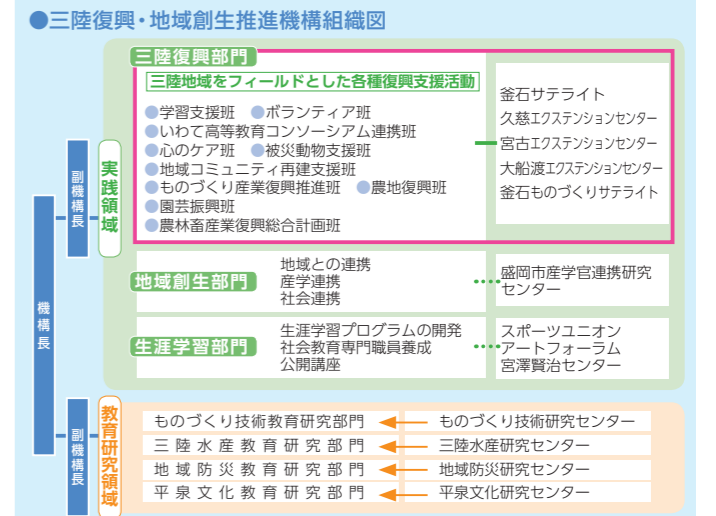


販売した商品の一部

三陸復興部門の紹介

三陸復興部門は、三陸地域をフィールドとして、再建途上にある三陸沿岸のまちづくり、ひとづくり、しごとづくりに主体的に取り組む「実践領域」の一部門です。

具体的には、①学習支援班、②いわて高等教育コンソーシアム連携班、③ボランティア班、④心のケア班、⑤被災動物支援班、⑥地域コミュニティ再建支援班、⑦ものづくり産業復興支援班、⑧農地復興班、⑨園芸復興班、⑩農林畜産業復興総合計画班の10班から構成されています。



班名	主な取り組み内容
学習支援班	●長期休業中の児童への学校施設開放支援 ●小中学生の交流事業
いわて高等教育コンソーシアム連携班	●地域リーダー育成プログラムの充実と発展
ボランティア班	●学生団体が主体的に行うボランティア活動に対する各種サポート
心のケア班	●釜石サテライトにおける心の相談ルームの運営 ●被災地における心のケアに関する市民講座の開催
被災動物支援班	●動物移動診療車による被災動物の診療 ●被災地の臨床獣医師向け「高度獣医診療セミナー」の開催
地域コミュニティ再建支援班	●地域コミュニティの実態調査及び地域コミュニティ再建への計画支援 ●拡大コミュニティ形成に向けた実態調査及び活動支援
ものづくり産業復興支援班	●3D CAD CAM 研修の実施 ●新製品研究会の支援
農地復興班	●陸前高田市小友町水田の土壌と用排水の栄養塩濃度の定期観測及び土壌環境のリモートセンシング
園芸復興班	●三陸ブランド野菜品目の作型・栽培技術の開発・導入と経営評価による生産支援
農林畜産業復興総合計画班	●自然資源を活用した産業振興と地域の活性化 ●自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興